

2018年9月13日

むつ市長 宮下宗一郎様

核の永久のゴミ捨て場となるだけの 使用済核燃料の「中間貯蔵施設」の操業を認めないでください

青森県むつ市で建設中のリサイクル燃料備蓄センター（使用済核燃料の「中間貯蔵施設」）については、当初から、最大50年の供用期間終了後に使用済核燃料が確実に搬出されるのか、搬出されずに居残り続け、永久の核のゴミ捨て場になりはしないか、ということが大きな問題となってきました。むつ市議会でも、核のゴミ捨て場になることに反対する意見が何度も出されました。今年1月に続き6月初めにも関西電力の使用済核燃料をむつ市へ搬出する計画が浮上しましたが、貴職はいち早く事実確認のために行動され、「地域の気持ちを無視したやり方で、現時点では到底受け入れられない」、「まず行き先がクリアにならないと、先の話はできない」との考えを示されました。ふるさとの豊かな自然を守りたい、子や孫に核のゴミを残してはならないという地域の気持ちをくみ取っての発言、行動と私たちは理解しています。

施設の事業許可に際して交わされた四者による協定書の第1条（3）の「使用済燃料は貯蔵期間の終了までに貯蔵施設から搬出するものとする」との記載について、2010年5月17日のむつ市議会全員協議会で議論がありました。六ヶ所再処理工場は寿命が約40年で貯蔵期間終了後の搬出先にはなりえず、搬出先の本命は「第二再処理工場」ということになっており、出席したリサイクル燃料貯蔵（RFS）の技術部長は、「第二再処理工場に対して国は検討を開始する」と答弁しました。当時の宮下順一郎市長はこの答弁を引き合いに出しながら、「最終処分地にはなりえない」と繰り返し強調していました。

しかしここへきて再処理をめぐる状況は大きく変化しています。六ヶ所再処理工場の目途が立たない状況で、「第二再処理工場」については検討すらなく、資源エネルギー庁が作成した核燃料サイクル図からも消えており、いまは全く未定であることを同庁も認めています。六ヶ所再処理工場については、ガラス固化に根本的な欠陥をかかえてトラブルが続出し、試運転が中断した中で3・11を迎え、その後も操業延期が繰り返されています。昨年12月には、新規制基準対応工事を理由に完成時期を3年延期するとの発表がありましたが、工事どころか、中断していた審査がようやく再開された状況で、審査を終える見通しもない状況にあります。

そしていま、日本の利用目的のないプルトニウム保有がますます国際的な批判にさらされています。プルトニウムの削減が求められる中、政府は、プルトニウム保有に制限を設け、必要最小限にしか再処理を行わない方向で検討を進めているとのことですが。しかし、いくら最小限にしても、再処理してしまえば、プルトニウムを増やすだけです。高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉措置が決まり、プルトニウム利用政策は目的

を失いました。日本には、再処理事業を完全に止め、プルトニウム利用政策を放棄することが求められています。

このように、むつ市の「中間貯蔵施設」は「中間」の意味を失っています。最初の搬入は東電の柏崎刈羽原発からキャスク1基とされていますが、原発サイトにある燃料プールが満杯に近く、このままでは原発の運転が継続できないという、そのためだけの搬入です。関西電力の話も同様です。50年後にはすべて搬出することになっていても、搬出先がなければ、結局はそこに残り続けることになるでしょう。はじめは1基であっても、これを許せばそこからなし崩し的に「リサイクル燃料」ではない「核のゴミ」を次々とため込むことになるでしょう。

むつ市は、施設の事業許可については既に同意されましたが、状況の変化により、協定書の第1条(3)に規定された搬出については、実際には履行されない状況にあります。同意の前提条件は失われたといってもよいでしょう。操業に際しては、県と協議のうえで改めて協定を結ぶとのことですが、以上のことから、貴職におかれましては、一切の搬入を認めず、操業を認めないよう、また、関西電力の搬入方針については関電自身が否定していますが、これについても今後一切認めることのないよう要望いたします。

要 望 事 項

1. むつ市に建設中の使用済核燃料の「中間貯蔵施設」について、柏崎刈羽原発からのキャスク1基の搬入を認めないこと
2. むつ市を核のゴミ捨て場にしないために「中間貯蔵施設」の操業を認めないこと
3. 関西電力の使用済核燃料搬入方針について、これを一切認めないこと

<申し入れ団体>

むつ市 核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会
原発核燃をなくす下北の会
青森県 核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会
核燃サイクル阻止核燃サイクル一万人原告訴訟団
青森県反核実行委員会
花とハーブの里
大間原発に反対する会
新潟県 さよなら柏崎刈羽原発プロジェクト
柏崎刈羽原発反対地元三団体
原発反対刈羽村を守る会
関 西 避難計画を案ずる関西連絡会
首都圏 国際環境 NGO FoE Japan
原子力規制を監視する市民の会

<連絡先>

核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会（担当：栗橋）